

**プログラムの概要**

農学に係わる「新しい品種を作る」、「作物を病虫害から守る」、「昆虫の生態や生理を解析して利用する」などを研究教育の目標としています。

植物育種学研究室では、農作物の栽培や繁殖に必要な『良い種』を作る研究、植物病理学研究室では農作物の病気の防除、特にウイルス病に関する研究、応用昆虫学研究室ではアザミウマやアブラムシ類を中心とした微小害虫の基礎的あるいは応用的な研究、昆虫機能利用学では昆虫や昆虫ウイルスに関して基礎から応用まで研究を行っています。

**達成目標**

応用生物学講座では、以下の①～③を学習・教育目標として定め、これらを到達目標としています。

- ① 農学に関連する微生物、昆虫および資源植物への学習を進める上で必要である語学、情報処理、専門基礎知識と思考力を高め、地域的・国際的両面の視野から物事を判断する能力を身につける。
- ② 農業に関連する微生物、昆虫および資源植物を対象に生物の機能と開発を調節、有害生物の管理と防除法、生物工学的手法による有用生物の探索・改良と農業への利用および生態系の制御などを中心に、生物の持つ限りない可能性とその利用を図るための理論と応用力を身につける。
- ③ 最終的にはさまざまな教育研究により、より高度なプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につける。

**履修要件（アドミッション・ポリシー）**

入学試験は次の4つのコースからなる生物生産科学科として実施しています。

- 植物生産学コース
- 動物生産学コース
- 応用生物学コース
- 応用生物化学コース

入学者は、1年次のカリキュラムの中で指定された科目の成績上位順に希望するコースに分属します。

## 1. 求める学生像

- (1) 生物生産科学科で学んでいくための基礎となる科目を習得している人
- (2) 生命科学に基づいた生産技術、生物資源の利用に関する専門知識を身につけたいという熱意のある人
- (3) 主体性があり、常に問題意識を持ち、解決に向けて自ら考え、行動を起こす意欲と能力を備えている人
- (4) 専門高校・農業関連学科推薦では、将来、農業及び農業関連産業に従事し、この分野の指導的立場をめざす人

これらを判断するために、以下のような基本方針で入学者の選抜を行っています。

## 2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 高等学校の教育課程を尊重し、基本的な学力を備えているかどうかを重視します。
- (2) 個別学力検査等では生物系および化学系分野に対する熱意と能力も評価の対象とします。
- (3) 推薦入試Iでは、主体的な姿勢、思考力、表現力、コミュニケーション能力なども考慮して評価します。

**到達目標に達するためのカリキュラム方針（カリキュラム・ポリシー）**

1年次には生物生産科学科として、共通教育関係科目と農学部コア科目（農学部コア実習、生物資源の科学、農業と環境）と生物学、分子生物学、有機化学、生物化学などを必修科目として教育します。

2年次には共通教育関係科目とともに、応用生物学講座の基礎科目として植物病理学I、応用昆虫学、昆虫機能学、植物育種学や基礎実験（生物科学実験、生物工学実験）・農業実習Iを履修します。

3年次から4年次にかけては、これまでの学習を発展させて、4つの研究室（植物育種学・植物病理学・応用昆虫学・昆虫機能利用学）に分属して、最新の科学技術の吸収と研究情報の収集（ゼミ演習）、一連の研究活動の実践として卒業論文研究を行い、4つの研究分野それぞれの高度専門職業人となるための能力を身につけます。

**修了認定の基準（ディプロマ・ポリシー）**

達成目標に到達するため、共通教育科目34単位以上、専門教育科目92単位以上、合計126単位以上の取得を条件とします。

応用生物学コースカリキュラムツリー

pg. 27

